

2019 年 7 月 18 日

文部科学大臣 殿

学校法人京都精華大学 理事長 石田 涼

大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	京都精華大学
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	<input checked="" type="checkbox"/> 大学・短期大学・高等専門学校・専門学校
大学等の所在地	京都府京都市左京区岩倉木野町 137
学長又は校長の氏名	ウスビ・サコ
設置者の名称	学校法人京都精華大学
設置者の主たる事務所の所在地	京都府京都市左京区岩倉木野町 137
設置者の代表者の氏名	理事長 石田涼
申請書を公表する予定のホームページアドレス	http://www.kyoto-seika.ac.jp/

大学等における修学の支援に関する法律(以下「大学等修学支援法」という。)第 7 条第 1 項の確認を申請します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点 (☑) を付けて下さい。

- この申請書(添付書類を含む。)の記載内容は、事実に相違ありません。
- 確認を受けた大学等は、大学等修学支援法に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。
- 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。
- この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。
- 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第 7 条第 2 項第 3 号及び第 4 号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	総務グループ 井上 武	075-702-5131	inouet@kyoto-seika.ac.jp
第2号の1	教学グループ 大羽勇憲	075-702-5119	oha32@kyoto-seika.ac.jp
第2号の2	総務グループ 井上 武	075-702-5131	inouet@kyoto-seika.ac.jp
第2号の3	教学グループ 大羽勇憲	075-702-5119	oha32@kyoto-seika.ac.jp
第2号の4	総務グループ 井上 武	075-702-5131	inouet@kyoto-seika.ac.jp

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点 (☑) を付けた上で、これらの書類を添付してください。(設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。)

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- ☑ 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》
- ☑ 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

- ☑ 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- ☑ 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料
- ☑ 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）【再掲】

その他

- ☑ 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- ☑ 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校名	京都精華大学
設置者名	学校法人京都精華大学

I 直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	5,511,028,740円	5,461,560,989円	49,467,751円
申請2年度前の決算	5,584,009,716円	5,561,780,883円	22,228,833円
申請3年度前の決算	5,919,683,047円	5,787,493,199円	132,189,848円

II 直前の決算の貸借対照表における「運用資産-外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	11,456,560,051円	1,652,091,096円	9,804,468,955円

III 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率 (F)/(E)
今年度(申請年度)	4,392人	2,989人	68%
前年度	4,392人	2,885人	65%
前々年度	4,392人	2,989人	68%

(IIの補足資料)「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の 名称	資産の内容	申請前年度の決算に おける金額
固定資産	特定資産及び有価証券	7,951,147,521円
流動資産	現金預金	3,505,412,530円

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の 名称	負債の内容	申請前年度の決算に おける金額
固定負債	長期借入金	1,336,242,000円
流動負債	短期借入金及び未払金	315,849,096円

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	京都精華大学
設置者名	学校法人京都精華大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
芸術学部	造形学科	夜・通信	16			16	13	
デザイン学部	イラスト学科／ビジュアルデザイン学科／プロダクトデザイン学科／建築学科	夜・通信				16	13	
マンガ学部	マンガ学科／アニメーション学科	夜・通信				16	13	
ポピュラーカルチャー学部	ポピュラーカルチャー学科	夜・通信				16	13	
人文学部	総合人文学科	夜・通信				16	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>「全学共通教育科目（SEEK）：実務経験を有する教員による授業科目について」 http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/files/2019/08/seek.pdf</p> <p>2020年度より各授業科目のシラバスへ明記するとともに、シラバス閲覧システムの絞込検索を介して該当科目を抽出できるように整備する。</p>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	京都精華大学
設置者名	学校法人京都精華大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/organization/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	(前)電鉄会社役員	2019年5月27日から 2022年5月26日まで	法人および大学運営全般
非常勤	(前)私立大学学長	2017年12月25日から 2020年12月24日まで	法人および大学運営全般
非常勤	(前)金融機関役員	2017年12月25日から 2020年12月24日まで	法人および大学運営全般
非常勤	(現)学校法人理事長	2017年12月25日から 2020年12月24日まで	法人および大学運営全般
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	京都精華大学
設置者名	学校法人京都精華大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>授業計画(シラバス)の作成に関しては、教務委員会が定めるガイドラインに基づき各授業科目担当教員が作成したシラバスを各学部の教務主任が内容のチェックを行なったうえで公表している。内容に改善の必要が認められるシラバスについては各授業担当教員に具体的な修正を依頼し、再度内容の確認を踏まえ公表している。シラバスの公表は、大学ポータルサイトで新年度のオリエンテーションの始まる3月後半までに翌年度の前期・後期分をまとめて公表している。</p> <p>ガイドラインでは主に、下記のポイントを説明している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの趣旨について ・ディプロマポリシーと各授業科目の関係について ・初回授業におけるガイダンスの設定について ・学期末の筆記・レポート試験の実施について ・授業外学習の指示について ・評価方法・基準の項目について ・テキストについて ・シラバスと授業内容の相違が招きうる影響について ・アクティブラーニング導入のお願い <p>なお、現在はディプロマポリシーを踏まえた到達目標の設定を各授業担当教員に依頼しているが、2020年度からはディプロマポリシーに基づき各授業科目の到達目標を各学部が事前に設定したうえでシラバス作成を依頼する予定である。</p>	
授業計画書の公表方法	https://portal.kyoto-seika.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目の成績評価の方法・基準については、履修規程第 19 条に「履修科目の成績は、学期末試験、期中のテスト等の試験、レポート、授業への参加度等を総合評価する。具体的な評価方法と評価基準は、履修科目の担当教員がシラバスにて公示する。」と定めており、これに基づいて各授業科目のシラバスの評価方法・評価基準欄に記載し、成績評価を実施している。</p> <p>また、学則第 19 条第 2 項に「成績の評価は S(100 点～90 点)、A(89 点～80 点)、B(79 点～70 点)、C(69 点～60 点)、F(59 点以下)、K(評価対象外)とし、C 以上をもって合格とする」と定め、履修規程第 4 条第 2 項から 5 項（下記参照）に基づき、厳格かつ適正に単位授与を行なっている。</p> <p>履修規程第 4 条</p> <p>2 履修科目の単位を修得するためには、授業および授業外学修を行い、大学学則第 19 条の規定に従って 60 点以上の成績評価を取得しなければならない。</p> <p>3 単位は、各授業科目のシラバスに基づき、学習意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価し授与されるものとする。</p> <p>4 原則として、履修科目の授業にはすべて出席しなければならない。</p> <p>5 代人に受講させる等、授業出席に関して不正行為と判断された場合は、当該科目の成績評価は 0 点となり、単位を修得できない。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>GPA は、成績評価の S を 4、A を 3、B を 2、C を 1、F および K を 0 の評点に置き換え、履修科目の単位数で乗じた点数の合計を、総履修科目単位数で除して算出している。</p> <p>GPA を算出するための対象科目は、原則として卒業要件単位に算入する全科目としている。ただし、単位認定科目等、成績点数の表記がない科目、および履修取消について指示された方法で手続を行い、取消が認められた科目は、GPA の算出から除外している。</p> <p>成績評価および GPA の算出については、学則第 19 条第 2 項と同第 3 項および履修規程第 21 条から第 23 条に定めている。</p> <p>GPA の算出方法はオリエンテーションで配布する「学修のてびき」にも記載し学生へ周知するとともに、学内専用ポータルサイトを介して学期ごとおよび通算 GPA を学生がいつでも確認できる仕組みを整備している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/files/2019/06/regulations_2019.pdf</p> <p>http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/files/2019/06/regulations_risyu_2019.pdf</p> <p>http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/files/2019/06/gakushuunotebiki2019.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

学則第1条に「広く知識を授けるとともに、深奥な学問芸術を研究・教授し、よりよき社会人としての人間形成を行うことを目的とする。」ことを定め、各学部においては以下の学位授与方針（ディプロマポリシー）に基づき卒業の認定を行っている。

また、学則第19条に「教育課程修了の認定は授業科目の試験、研究報告の成績を審査し、その結果に基づき、教授会の審議を経て学長が行なう。」こと、学則第21条に「学長は、学部で4年以上在籍し、卒業に必要な単位数124単位を修得し、かつ学費等納入金について大学への諸債務を滞納していない者について、教授会の審議を経て卒業を認定する。」と定め、適切に卒業の認定を行なっている。

ディプロマポリシー

【芸術学部】

領域1 知識・理解・技能

1 多様性を理解する力

文化の多様性、人間と芸術の関係を理解し、自らの社会的役割を認識できる。

2 専門知を活用する力

芸術分野に関する知識・技能を体系的に理解し、その分野に固有の視座や思考方法を身につけている。

領域2 思考・判断・表現

1 論理的に思考し判断する力

多角的な視点から対象や事象の本質を捉え、論理的かつ客観的に分析・考察し、自らの解釈を持って判断できる。

2 考えを表現する力

他者の心に訴え、行動を喚起する造形力を備えている。

3 多様な人とコミュニケーションする力

文化や芸術の社会的意義を認識し、建設的・創造的な情報を発信できる。

領域3 関心・意欲・態度

1 他者と協働する力

自らの個性や適性を活かして行動し、目標を持って多様な人々と協働できる。

2 社会と他者に貢献する力

芸術に関する知識や技能で社会や他者に働きかけ、精神的価値の向上による新しい社会のあり方を提案できる。

【デザイン学部】

領域1 知識・理解・技能

1 多様性を理解する力

広い教養と多文化理解の力を身につけ、複雑化した現代社会の問題群を横断的に捉えられる。

2 専門知を活用する力

デザイン分野に関する知識・技能を体系的に理解し、その分野に固有の視座や思考方法を身につけている。

領域2 思考・判断・表現

1 論理的に思考し判断する力

時代を的確に察知し、自ら問題点を見つけてその本質を捉え、独自の解答を導き出せる。

2 考えを表現する力

国際的な視野と感覚を持って、新しい発想のデザインを創造できる。

3 多様な人とコミュニケーションする力

他者に自らのデザインに関するコンセプトや考え方を明確に伝達できる。

領域3 関心・意欲・態度

1 他者と協働する力

自らの個性や適性を活かして行動し、目標を持って多様な人々と協働できる。

2 社会と他者に貢献する力

デザインと人間、デザインと社会との関係性を考え、構想力・創造力を駆使して新しい生活や社会を提案できる。

【マンガ学部】

領域1 知識・理解・技能

1 多様性を理解する力

多くの事象にわたる幅広い総合的な教養、そして多文化理解の能力を身につけている。

2 専門知を活用する力

マンガ分野に関する知識・技能を体系的に理解し、その分野に固有の視座や思考方法を身につけている。

領域2 思考・判断・表現

1 論理的に思考し判断する力

社会的事象に幅広い関心を持ち、問題の本質を掴んで解決方法を提案できる。

2 考えを表現する力

テーマや思想を作品に盛り込み、論理的な思考に基づく自己表現ができる。

3 多様な人とコミュニケーションする力

マンガ・アニメーション表現の可能性を探究し、自分の価値観を他者に伝達できる。

領域3 関心・意欲・態度

1 他者と協働する力

チームワークの重要性を理解し、現場において幅広い対応力を発揮できる。

2 社会と他者に貢献する力

新たな発想による制作によって、地域や国際社会に働きかける意識と能力を備えている。

【ポピュラーカルチャー学部】

領域1 知識・理解・技能

1 多様性を理解する力

文化の多様性および文化と自然、人間、社会、個人の関係性を理解し、新しい価値をみ出すための知識や技能を身につけている。

2 専門知を活用する力

ポピュラーカルチャー分野全般および音楽とファッションに関する知識・技能を体系的に理解し、その分野に固有の視座や思考方法を身につけている。

領域2 思考・判断・表現

1 論理的に思考し判断する力

現状を批判的に捉える思考力と、社会の中で公正にふるまう判断力を身につけ、適切な課題設定と課題解決の方向を示すことができる。

2 考えを表現する力

ポピュラーカルチャーおよび音楽とファッションの歴史性と掘り込みを理解し、ポピュラーカルチャーに関わる社会的意味と主体的感性・思想を表現できる。

3 多様な人とコミュニケーションする力

音楽とファッションを巡って、社会的・文化的背景と文脈を理解しながら、多様な人々と公正にコミュニケーションできる。

領域3 関心・意欲・態度

1 他者と協働する力

多様な他者とその差異を理解し受け止めながら、様々な場面でともに協働できる。

<p>2 社会と他者に貢献する力 ポピュラーカルチャーおよび音楽とファッションに関して獲得した知識・技能を用いて、社会や他者との課題を設定し、解決する姿勢を身につけている。</p> <p>【人文学部】</p> <p>領域1 知識・理解・技能</p> <p>1 多様性を理解する力 自文化の成り立ちや他文化との関係を多元的に捉え、世界が抱える諸課題を多角的に理解できる。</p> <p>2 専門知を活用する力 人文学分野に関する知識・技能を体系的に理解し、その分野に固有の視座や思考方法を身につけている。</p> <p>領域2 思考・判断・表現</p> <p>1 論理的に思考し判断する力 学術調査・研究において、独創的な着眼点や新たな知見をもって、社会的課題に対する創造的な問いを立て、分析・考察し、解決できる。</p> <p>2 考えを表現する力 学術調査・研究の成果や自分の知見をまとめる論述能力を身につけている。</p> <p>3 多様な人とコミュニケーションする力 社会と文化の変遷を理解し、日本語や外国語を用いて、研究成果や自分の知見を分かりやすく伝達できる。</p> <p>領域3 関心・意欲・態度</p> <p>1 他者と協働する力 豊かな人間性を活かし、市民として他者と協働する姿勢を身につけている。</p> <p>2 社会と他者に貢献する力 実社会との結びつきを重視した実践力を活かして、現場が抱える様々な課題の解決に尽力できる。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>https://www.kyoto-seika.ac.jp/about/policy/</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	京都精華大学
設置者名	学校法人京都精華大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/files/2019/06/chinshaku2018.pdf
収支計算書又は損益計算書	http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/files/2019/06/shikinshuushi2018.pdf
財産目録	http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/files/2019/06/zaisanmokuroku2018.pdf
事業報告書	http://kyoto-seika.ac.jp/about/files/2019/06/2018_jigyohoukoku.pdf
監事による監査報告(書)	http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/files/2019/06/kansahoukokusho2018.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: _____ 対象年度: _____)
公表方法:
中長期計画(名称: V I S I O N 2 0 2 4 S E I K A 対象年度: 2018年度~2024年度)
公表方法: http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/files/2018/09/vision_2024seika.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/files/2015/04/2015_houkoku.pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.juaa.or.jp/search/detail.php?id=110&page=1#result1

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 芸術学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/policy/art/)</p> <p>(概要) 人間の多様性を理解した上で、幅広い視野から適切な表現方法を用いてコミュニケーションをとることができ、さらに芸術によって培われる専門性と創造力で人類社会の諸課題に取り組むことができる主体性をもった人間形成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/policy/art/)</p> <p>(概要) 芸術学部のディプロマポリシーは下記の通り。</p> <p>領域 1 知識・理解・技能</p> <p>1 多様性を理解する力 文化の多様性、人間と芸術の関係を理解し、自らの社会的役割を認識できる。</p> <p>2 専門知を活用する力 芸術分野に関する知識・技能を体系的に理解し、その分野に固有の視座や思考方法を身につけている。</p> <p>領域 2 思考・判断・表現</p> <p>1 論理的に思考し判断する力 多角的な視点から対象や事象の本質を捉え、論理的かつ客観的に分析・考察し、自らの解釈を持って判断できる。</p> <p>2 考えを表現する力 他者の心に訴え、行動を喚起する造形力を備えている。</p> <p>3 多様な人とコミュニケーションする力 文化や芸術の社会的意義を認識し、建設的・創造的な情報を発信できる。</p> <p>領域 3 関心・意欲・態度</p> <p>1 他者と協働する力 自らの個性や適性を活かして行動し、目標を持って多様な人々と協働できる。</p> <p>2 社会と他者に貢献する力 芸術に関する知識や技能で社会や他者に働きかけ、精神的価値の向上による新しい社会のあり方を提案できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/policy/art/)</p> <p>(概要) 芸術学部は、学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得させるために、全学教養科目、全学専門科目、学部専門教育科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系をわかりやすく明示します。芸術学部専門科目の教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。</p> <p>1 教育内容 学部専門教育科目では、芸術を学ぶうえで基盤となる知識や教養を身につけるための専門講義科目を開講します。1年次に基礎を学ぶ科目を配当し、2年次以降には専門性を深める手助けとなる科目を配当します。 さらに、芸術に関わる技術や表現手法を学ぶ実技系の科目群として、専門基礎科目、メチェ教育科目、専門実習科目、専門演習科目を開講します。</p>

専門基礎科目は、基礎的な造形表現により芸術を学ぶ上での体幹となる「感覚、感性」や「発見、発想」を起こす力を養います。基礎ゼミは、教員と学生、学生同士のコミュニケーションを軸に芸術を学ぶ意義を共有し、学生個々の芸術活動の方向性を導きます。メチエ教育科目では、創作するための多様な技術や表現手段を体験し、その基礎となる能力を身につけさせます。専門実習科目は、制作・研究に取り組むことで技術力・表現力・思考力を磨きます。専門演習科目は、主に表現と社会との関わりに主眼を置いて科目を編成しています。

2 教育方法

- (1) 学生の主体性を伸ばすため、能動的学修の視点を取り入れた教育方法を実施します。
- (2) 授業内・外の学修時間を考慮した授業内容を設計します。
- (3) 学修ポートフォリオの作成指導により、学生の自律的な学修を支援します。

3 学修成果の評価

芸術学部では、学位授与の方針に掲げる能力・資質およびこれらの総合的な活用力の修得状況を、「進級時」「卒業時」の2つのレベルで把握し、評価します。

各レベルの評価の実施方法は、以下のとおりとします。

(1) 進級時

進級時の学修成果は、学部所定の教育課程における進級要件達成状況（単位取得、GPA）により、総合的評価を行います。

(2) 卒業時

4年間の学修成果は、学部所定の教育課程における卒業要件達成状況（単位取得、GPA）により、総合的評価を行います。卒業制作（必修）は、評価ルーブリックを活用し、複数教員によって多面的評価を行います。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/policy/art/>）

（概要）

芸術学部のアドミッションポリシーは下記の通り。

領域1 知識・理解・技能

1 高等学校の教育課程における基礎学力・技能を有している。

領域2 思考・判断・表現

1 身近な問題について、知識や情報をもとに筋道を立てて思考できる。

2 他者の意見を理解し、自分の考えをわかりやすく表現できる。

領域

3 関心・意欲・態度

1 新しい領域や多様な人々に対して先入観なく向き合い、生涯にわたって学習を継続する意欲がある。

2 学びたい学部・学科の知識や経験を社会で活かしたいという目的意識を持っている。

学部等名 デザイン学部

教育研究上の目的

（公表方法：<https://www.kyoto-seika.ac.jp/edu/design/policy/>）

（概要）

デザイン領域において高度な技法知識を修得し新たな可能性を探究すること、および自立した思考によってグローバル社会および地域社会に現実的に貢献するデザイナー・プランナーの資質を備えた、よりよき社会人としての人間形成を行うことを目的とする。

卒業の認定に関する方針

（公表方法：<https://www.kyoto-seika.ac.jp/edu/design/policy/>）

<p>(概要) デザイン学部のディプロマポリシーは下記の通り。</p> <p>領域1 知識・理解・技能</p> <p>1 多様性を理解する力 広い教養と多文化理解の力を身につけ、複雑化した現代社会の問題群を横断的に捉えられる。</p> <p>2 専門知を活用する力 デザイン分野に関する知識・技能を体系的に理解し、その分野に固有の視座や思考方法を身につけている。</p> <p>領域2 思考・判断・表現</p> <p>1 論理的に思考し判断する力 時代を的確に察知し、自ら問題点を見つけてその本質を捉え、独自の解答を導き出せる。</p> <p>2 考えを表現する力 国際的な視野と感覚を持って、新しい発想のデザインを創造できる。</p> <p>3 多様な人とコミュニケーションする力 他者に自らのデザインに関するコンセプトや考え方を明確に伝達できる。</p> <p>領域3 関心・意欲・態度</p> <p>1 他者と協働する力 自らの個性や適性を活かして行動し、目標を持って多様な人々と協働できる。</p> <p>2 社会と他者に貢献する力 デザインと人間、デザインと社会との関係性を考え、構想力・創造力を駆使して新しい生活や社会を提案できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kyoto-seika.ac.jp/edu/design/policy/)</p>
<p>(概要) デザイン学部は、学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得させるために、全学教養科目、全学専門科目、学部専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系をわかりやすく明示します。 デザイン学部専門科目の教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。</p> <p>1 教育内容 学部専門科目では、作品を制作するための理論的根拠となる、デザイン領域に関する専門的な理論と歴史などを学ぶことのできる専門講義科目を開講します。 さらに、各学科の実技実習および実技演習において、基礎技術を獲得させるとともに、新たな表現手法に対する探究心を喚起し、社会から必要とされるデザインを生み出す力を養います。 最終年次には、卒業制作を課します。調査・研究・分析および作品制作・卒業論文作業を通じ、社会に向けた発信力を養います。</p> <p>2 教育方法 (1) 学生の主体性を伸ばすため、能動的学修の視点を取り入れた教育方法を実施します。 (2) 授業内・外の学修時間を考慮した授業内容を設計します。 (3) 学修ポートフォリオの作成指導により、学生の自律的な学修を支援します。</p> <p>3 学修成果の評価 デザイン学部では、学位授与の方針に掲げる能力・資質およびこれらの総合的な活用力の修得状況を、「進級時」「卒業時」の2つのレベルで把握し、評価します。 各レベルの評価の実施方法は、以下のとおりとします。 (1) 進級時 進級時の学修成果は、学部所定の教育課程における進級要件達成状況（単位取得、GPA）により、総合的評価を行います。 (2) 卒業時</p>

<p>4年間の学修成果は、学部所定の教育課程における卒業要件達成状況（単位取得、GPA）により、総合的評価を行います。卒業制作（必修）は、評価ルーブリックを活用し、複数教員によって多面的評価を行います。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.kyoto-seika.ac.jp/edu/design/policy/）</p>
<p>（概要） デザイン学部のアドミッションポリシーは下記の通り。</p> <p>領域1 知識・理解・技能 1 高等学校の教育課程における基礎学力・技能を有している。</p> <p>領域2 思考・判断・表現 1 身近な問題について、知識や情報をもとに筋道を立てて思考できる。 2 他者の意見を理解し、自分の考えをわかりやすく表現できる。</p> <p>領域3 関心・意欲・態度 1 新しい領域や多様な人々に対して先入観なく向き合い、生涯にわたって学習を継続する意欲がある。 2 学びたい学部・学科の知識や経験を社会で活かしたいという目的意識を持っている。</p>
<p>学部等名 マンガ学部</p>
<p>教育研究上の目的 （公表方法：https://www.kyoto-seika.ac.jp/edu/manga/policy/）</p>
<p>（概要） マンガ文化の再評価とともに重要視されるマンガやアニメーションの制作と理論について多角的な教育研究を行い新たな可能性を探究すること、およびマンガ文化の継承と発展に貢献する資質を備えた、よりよき社会人として人間形成を行うことを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.kyoto-seika.ac.jp/edu/manga/policy/）</p>
<p>（概要） マンガ学部のディプロマポリシーは下記の通り。</p> <p>領域1 知識・理解・技能 1 多様性を理解する力 多くの事象にわたる幅広い総合的な教養、そして多文化理解の能力を身につけている。 2 専門知を活用する力 マンガ分野に関する知識・技能を体系的に理解し、その分野に固有の視座や思考方法を身につけている。</p> <p>領域2 思考・判断・表現 1 論理的に思考し判断する力 社会的事象に幅広い関心を持ち、問題の本質を掴んで解決方法を提案できる。 2 考えを表現する力 テーマや思想を作品に盛り込み、論理的な思考に基づく自己表現ができる。 3 多様な人とコミュニケーションする力 マンガ・アニメーション表現の可能性を探究し、自分の価値観を他者に伝達できる。</p> <p>領域3 関心・意欲・態度 1 他者と協働する力 チームワークの重要性を理解し、現場において幅広い対応力を発揮できる。 2 社会と他者に貢献する力 新たな発想による制作によって、地域や国際社会に働きかける意識と能力を備えている。</p>

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kyoto-seika.ac.jp/edu/manga/policy/)</p> <p>(概要)</p> <p>マンガ学部は、学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得させるために、全学教養科目、全学専門科目、学部専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系をわかりやすく明示します。マンガ学部専門科目の教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。</p> <p>1 教育内容</p> <p>学部専門科目では、作品を制作するための理論的根拠となる、マンガ・アニメーションに関する専門的な理論や歴史などを学ぶことのできる専門講義科目を開講します。さらに、各学科の実技系科目において、基礎技術を獲得させるとともに、新たな表現手法に対する探究心を喚起し、新しい価値を創造する力を養います。最終年次には、卒業制作を課します。マンガ・アニメーションの作品発表を通じ、表現を創出する力と社会に向けた発信力を養います。</p> <p>2 教育方法</p> <p>(1) 学生の主体性を伸ばすため、能動的学修の視点を取り入れた教育方法を実施します。 (2) 授業内・外の学修時間を考慮した授業内容を設計します。 (3) 学修ポートフォリオの作成指導により、学生の自律的な学修を支援します。</p> <p>3 学修成果の評価</p> <p>マンガ学部では、学位授与の方針に掲げる能力・資質およびこれらの総合的な活用力の修得状況を、「進級時」「卒業時」の2つのレベルで把握し、評価します。各レベルの評価の実施方法は、以下のとおりとします。</p> <p>(1) 進級時</p> <p>進級時の学修成果は、学部所定の教育課程における進級要件達成状況（単位取得、GPA）により、総合的評価を行います。</p> <p>(2) 卒業時</p> <p>4年間の学修成果は、学部所定の教育課程における卒業要件達成状況（単位取得、GPA）により、総合的評価を行います。卒業制作（必修）は、評価ルーブリックを活用し、複数教員によって多面的評価を行います。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kyoto-seika.ac.jp/edu/manga/policy/)</p> <p>(概要)</p> <p>マンガ学部のアドミッションポリシーは下記の通り。</p> <p>領域1 知識・理解・技能</p> <p>1 高等学校の教育課程における必要な基礎学力・技能を有している。</p> <p>領域2 思考・判断・表現</p> <p>1 身近な問題について、知識や情報をもとに筋道を立てて思考できる。 2 他者の意見を理解し、自分の考えをわかりやすく表現できる。</p> <p>領域3 関心・意欲・態度</p> <p>1 新しい領域や多様な人々に対して先入観なく向き合い、生涯にわたって学習を継続する意欲がある。 2 学びたい学部・学科の知識や経験を社会で活かしたいという目的意識を持っている。 3 エンターテインメントの価値や感動を他人に伝達する意欲がある。</p>
<p>学部等名 ポピュラーカルチャー学部</p> <p>教育研究上の目的 (公表方法：http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/policy/popularculture/)</p>

<p>(概要)</p> <p>国際的に注目される、ポピュラーカルチャー領域において、多角的な教育研究を行い、豊かな人間性を育む文化表現を通して、次世代の産業界の発展に貢献する資質を備えた、よりよき社会人としての人間形成を行うことを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/policy/popularculture/)</p>
<p>(概要)</p> <p>ポピュラーカルチャー学部のディプロマポリシーは下記の通り。</p> <p>領域1 知識・理解・技能</p> <p>1 多様性を理解する力 文化の多様性および文化と自然、人間、社会、個人の関係性を理解し、新しい価値をみ出すための知識や技能を身につけている。</p> <p>2 専門知を活用する力 ポピュラーカルチャー分野全般および音楽とファッションに関する知識・技能を体系的に理解し、その分野に固有の視座や思考方法を身につけている。</p> <p>領域2 思考・判断・表現</p> <p>1 論理的に思考し判断する力 現状を批判的に捉える思考力と、社会の中で公正にふるまう判断力を身につけ、適切な課題設定と課題解決の方向を示すことができる。</p> <p>2 考えを表現する力 ポピュラーカルチャーおよび音楽とファッションの歴史性と広がり理解し、ポピュラーカルチャーに関わる社会的意味と主体的感性・思想を表現できる。</p> <p>3 多様な人とコミュニケーションする力 音楽とファッションを巡って、社会的・文化的背景と文脈を理解しながら、多様な人々と公正にコミュニケーションできる。</p> <p>領域3 関心・意欲・態度</p> <p>1 他者と協働する力 多様な他者とその差異を理解し受け止めながら、様々な場面でともに協働できる。</p> <p>2 社会と他者に貢献する力 ポピュラーカルチャーおよび音楽とファッションに関して獲得した知識・技能を用いて、社会や他者との課題を設定し、解決する姿勢を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/policy/popularculture/)</p>
<p>(概要)</p> <p>ポピュラーカルチャー学部は、学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得させるために、全学教養科目、全学専門科目、学部専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系をわかりやすく明示します。</p> <p>ポピュラーカルチャー学部専門科目の教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。</p> <p>1 教育内容 学部専門科目では、1年次には音楽とファッションに向き合うために必要な基礎能力を身につける基礎実習・基礎演習を開講します。2年次は自分の目指す方向とそのため知識と技能を見極めることができるよう、制作実習・制作演習を開講します。</p> <p>3年次からは選択した専攻別にプロジェクトを用意し、専門的知識を深め、専門的技術を磨くことのできる応用実習・応用演習を開講します。</p> <p>最終年次には、卒業制作を課します。学生自身が実現したいプロジェクトを計画段階から作り上げるよう指導することで、表現を創出する力を養います。</p> <p>2 教育方法</p>

<p>(1) 学生の主体性を伸ばすため、能動的学修の視点を取り入れた教育方法を実施します。</p> <p>(2) 授業内・外の学修時間を考慮した授業内容を設計します。</p> <p>(3) 学修ポートフォリオの作成指導により、学生の自律的な学修を支援します。</p> <p>3 学修成果の評価</p> <p>ポピュラーカルチャー学部では、学位授与の方針に掲げる能力・資質およびこれらの総合的な活用力の修得状況を、「進級時」「卒業時」の2つのレベルで把握し、評価します。各レベルの評価の実施方法は、以下のとおりとします。</p> <p>(1) 進級時</p> <p>進級時の学修成果は、学部所定の教育課程における進級要件達成状況（単位取得、GPA）により、総合的評価を行います。</p> <p>(2) 卒業時</p> <p>4年間の学修成果は、学部所定の教育課程における卒業要件達成状況（単位取得、GPA）により、総合的評価を行います。卒業制作・卒業論文（必修）は、評価ルーブリックを活用し、複数教員によって多面的評価を行います。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>（公表方法：http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/policy/popularculture/）</p>
<p>（概要）</p> <p>ポピュラーカルチャー学部のアドミッションポリシーは下記の通り。</p> <p>領域1 知識・理解・技能</p> <p>1 高等学校の教育課程における基礎学力・技能を有している。</p> <p>領域2 思考・判断・表現</p> <p>1 身近な問題について、知識や情報をもとに筋道を立てて思考できる。</p> <p>2 他者の意見を理解し、自分の考えをわかりやすく表現できる。</p> <p>領域3 関心・意欲・態度</p> <p>1 新しい領域や多様な人々に対して先入観なく向き合い、生涯にわたって学習を継続する意欲がある。</p> <p>2 学びたい学部・学科の知識や経験を社会で活かしたいという目的意識を持っている。</p>

<p>学部等名 人文学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>（公表方法：http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/policy/humanities/）</p>
<p>（概要）</p> <p>国際的な視野と体験を重視し、地球環境問題の深刻化、情報技術化、経済のグローバル化の時代に求められる人間の社会と文化についての学際的な教育研究を行うこと、および自立した思考力によって現実の社会と文化に貢献する資質を備えた、よりよき社会人としての人間形成を行うことを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>（公表方法：http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/policy/humanities/）</p>
<p>（概要）</p> <p>人文学部のディプロマポリシーは下記の通り。</p> <p>領域1 知識・理解・技能</p> <p>1 多様性を理解する力</p> <p>自文化の成り立ちや他文化との関係を多角的に捉え、世界が抱える諸課題を多角的に理解できる。</p> <p>2 専門知を活用する力</p> <p>人文学分野に関する知識・技能を体系的に理解し、その分野に固有の視座や思考方法を身につけている。</p> <p>領域2 思考・判断・表現</p> <p>1 論理的に思考し判断する力</p>

<p>学術調査・研究において、独創的な着眼点や新たな知見をもって、社会的課題に対する創造的な問いを立て、分析・考察し、解決できる。</p> <p>2 考えを表現する力 学術調査・研究の成果や自分の知見をまとめる論述能力を身につけている。</p> <p>3 多様な人とコミュニケーションする力 社会と文化の変遷を理解し、日本語や外国語を用いて、研究成果や自分の知見を分かりやすく伝達できる。</p> <p>領域3 関心・意欲・態度</p> <p>1 他者と協働する力 豊かな人間性を活かし、市民として他者と協働する姿勢を身につけている。</p> <p>2 社会と他者に貢献する力 実社会との結びつきを重視した実践力を活かして、現場が抱える様々な課題の解決に尽力できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/policy/humanities/)</p>
<p>(概要)</p> <p>人文学部は、学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得させるために、全学教養科目、全学専門科目、学部専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系をわかりやすく明示します。</p> <p>人文学部専門科目の教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。</p> <p>1 教育内容</p> <p>学部専門科目では、1年次には人文学の基本（学びを支える基盤的な知識、思考力）を習得するための、人文学基盤科目群を開講します。</p> <p>2 年次以降は、専攻に分かれた専門研究科目群を開講し、当該分野の専門的知識を系統的に習得させます。</p> <p>さらに、1年次からコミュニケーション・プログラム、ソーシャルデザイン・プログラム、フィールド・プログラムからなる創造実践科目群を開講し、社会の課題を解決するための実践的な力を身につけさせます。</p> <p>最終年次には卒業論文の作成を課します。学生が自主的に課題を設定し、その研究計画を構想・実行するよう指導することで、人文学的教養と専門的学識を統合する豊かな論述能力を養います。</p> <p>2 教育方法</p> <p>(1) 学生の主体性を伸ばすため、能動的学修の視点を取り入れた教育方法を実施します。</p> <p>(2) 授業内・外の学修時間を考慮した授業内容を設計します。</p> <p>(3) 学修ポートフォリオの作成指導により、学生の自律的な学修を支援します。</p> <p>3 学修成果の評価</p> <p>人文学部では、学位授与の方針に掲げる能力・資質およびこれらの総合的な活用力の修得状況を、「進級時」「卒業時」の2つのレベルで把握し、評価します。</p> <p>各レベルの評価の実施方法は、以下のとおりとします。</p> <p>(1) 進級時</p> <p>進級時の学修成果は、学部所定の教育課程における進級要件達成状況（単位取得、GPA）により、総合的評価を行います。</p> <p>(2) 卒業時</p> <p>4年間の学修成果は、学部所定の教育課程における卒業要件達成状況（単位取得、GPA）により、総合的評価を行います。卒業制作・卒業論文（必修）は、評価ルーブリックを活用し、複数教員によって多面的評価を行います。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/policy/humanities/)</p>

<p>(概要)</p> <p>人文学部のアドミッションポリシーは下記の通り。</p> <p>領域1 知識・理解・技能</p> <p>1 高等学校の教育課程における基礎学力・技能を有している。</p> <p>領域2 思考・判断・表現</p> <p>1 身近な問題について、知識や情報をもとに筋道を立てて思考できる。</p> <p>2 他者の意見を理解し、自分の考えをわかりやすく表現できる。</p> <p>領域3 関心・意欲・態度</p> <p>1 新しい領域や多様な人々に対して先入観なく向き合い、生涯にわたって学習を継続する意欲がある。</p> <p>2 学びたい学部・学科の知識や経験を社会で活かしたいという目的意識を持っている。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/disclosure/basicinfo_for_edu/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
芸術学部	—	20人	5人	2人	0人	4人	31人
デザイン学部	—	15人	6人	11人	0人	7人	39人
マンガ学部	—	12人	19人	11人	0人	9人	51人
ホビュラカルチャー学部	—	7人	5人	1人	0人	3人	16人
人文学部	—	18人	4人	8人	0人	0人	30人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		420人					420人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://portal.kyoto-seika.ac.jp/gyoseki/japanese/index.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>教員の教育能力の向上を目的とした全学組織として、教務部長が委員長を務めるFD委員会を設置し、以下の各施策を企画・実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の教育能力向上のための研修として、2018年度は全学FD研修会を6回、各学部・研究科主催のFD研修会を16回開催した。なお、参加率を向上させるために、FD研修会の映像を記録し当日参加できなかった教員が視聴できる仕組みを導入し、参加率の向上に努めた結果、これらの研修会に1回以上参加した専任教員の割合は95%となった。 ・学生による授業評価アンケートを前期・後期に実施し、その集計結果を授業担当教員にフィードバックして授業改善に活用している。 ・授業公開・授業参観を前期・後期に実施し、参観した教員が自身の授業改善に向けた教授法の情報共有や意見交換の場として活用している。 							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
芸術学部	240人	123人	51%	960人	479人	49%	欠員の範囲	1人
デザイン学部	208人	233人	112%	832人	876人	105%	欠員の範囲	4人
マンガ学部	232人	331人	142%	928人	1,046人	112%	欠員の範囲	0人
ポピュラーカルチャー学部	118人	66人	55%	472人	242人	51%	欠員の範囲	0人
人文学部	300人	127人	42%	1,200人	346人	28%	欠員の範囲	2人
合計	1,098人	880人	80%	4,392人	2,989人	68%	0人	7人
(備考)								

b.卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
芸術学部	160人 (100%)	15人 (9.4%)	111人 (69.4%)	34人 (21.3%)
デザイン学部	175人 (100%)	1人 (0.6%)	124人 (70.9%)	50人 (28.6%)
マンガ学部	197人 (100%)	1人 (0.5%)	123人 (62.4%)	73人 (37.1%)
ポピュラーカルチャー学部	55人 (100%)	1人 (1.8%)	40人 (72.7%)	14人 (25.5%)
人文学部	84人 (100%)	2人 (2.4%)	52人 (61.9%)	30人 (35.7%)
合計	671人 (100%)	20人 (3.0%)	450人 (67.1%)	201人 (30.0%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)	
●	主な進学先 京都市立芸術大学大学院／愛知県立芸術大学大学院／京都精華大学大学院
●	主な就職先
○	芸術学部 エルロイ／京都市教育委員会／日本絨氈／カプコン／川島織物セルコン／カイカイキキ／宝塚舞台
○	デザイン学部 アドブレン／トランスコスモス／サイバーエージェント／シチズン時計／ワントゥーテン／カプコン／セガ・インタラクティブ
○	マンガ学部 任天堂／Happy Elements／京都アニメーション／A-1 ピクチャーズ／DMM GAMES／プロダクション I・G／Cygames Pictures
○	ポピュラーカルチャー学部 島村楽器／カイカイキキ／ノムラテラー／電音エンジニアリング／ジェノバ・ジャパン／ワグ／エイ・ネット
○	人文学部 Donuts／恵文社／清水寺／アッシュペー・フランス／BANKAN わものや／こと京都

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>授業科目については学則第 10 条に下記の通り定めこれを実施している。</p> <p>第 10 条 本学の授業科目および単位数は別表Ⅰ、別表Ⅱ、別表Ⅲ、および別表Ⅳのとおりとする。</p> <p>2 学長は他学部および他学科が開設する授業科目の中から学部交流科目および学科交流科目を定め、当該学部および学科の卒業に必要な単位とすることができる。</p> <p>単位数は学則第 11 条に下記の通り定め、これを実施している。</p> <p>第 11 条 各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の各号の基準によって計算する。</p> <p>(1) 講義および演習については、15 時間から 30 時間までの範囲で定められた時間の授業をもって 1 単位とする。</p> <p>(2) 実験、実習および実技等の授業については、30 時間から 45 時間までの範囲で定められた時間の授業をもって 1 単位とする。ただし、個人指導による実技の授業については、相応の時間の授業をもって 1 単位とする。</p> <p>2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業制作、学外学修・個別課題学習等の授業科目および公の技能審査等による認定を受けた者については、これらの学修の成果を評価して適切な単位を授与することができる。</p> <p>教育課程の履修については学則第 12 条に下記の通り定めこれを実施している。</p> <p>第 12 条 学生は原則として、別表Ⅰに定める教育課程に従い、各年次に配当された授業科目を履修する。</p> <p>2 学生が各年次所定の授業科目を履修しない場合、または所定の単位を修得しない場合は、次学年に進級することができない。進級に関する事項は別にこれを定める。</p> <p>3 卒業に必要な単位は、124 単位とする。</p> <p>年間の授業の計画については、学則第 7 条に下記の通り定めこれを実施している。</p>
--

第 7 条 1 学年の授業日数は定期試験の日数を含めて 35 週、210 日を下らないものとし、1 学年を分けて次の学期とする。

- ① 前期 4 月 1 日より 9 月 30 日まで
- ② 後期 10 月 1 日より 3 月 31 日まで

履修登録については、学則第 17 条に下記の通り定めこれを実施している。

第 17 条 学生は履修しようとする授業科目を毎学期始め、所定の期日までに届け出なければならない。

2 学生は当該学部が定める登録上限単位数の範囲内で履修登録しなければならない。

※学則の別表Ⅰ、別表Ⅱ、別表Ⅲ、別表Ⅳについては、下記参照。

http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/files/2019/06/regulations_2019.pdf

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

各授業科目の成績評価の方法・基準については、履修規程第 19 条に「履修科目の成績は、学期末試験、期中のテスト等の試験、レポート、授業への参加度等を総合評価する。具体的な評価方法と評価基準は、履修科目の担当教員がシラバスにて公示する。」と定めており、これに基づいて各授業科目のシラバスの評価方法・評価基準欄に記載し、成績評価を実施している。

また、学則第 19 条第 2 項に「成績の評価は S(100 点～90 点)、A(89 点～80 点)、B(79 点～70 点)、C(69 点～60 点)、F(59 点以下)、K(評価対象外)とし、C 以上をもって合格とする」と定め、履修規程第 4 条第 2 項から 5 項（下記参照）に基づき、厳格かつ適正に単位授与を行なっている。

履修規程第 4 条

2 履修科目の単位を修得するためには、授業および授業外学修を行い、大学学則第 19 条の規定に従って 60 点以上の成績評価を取得しなければならない。

3 単位は、各授業科目のシラバスに基づき、学習意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価し授与されるものとする。

4 原則として、履修科目の授業にはすべて出席しなければならない。

5 代人に受講させる等、授業出席に関して不正行為と判断された場合は、当該科目の成績評価は 0 点となり、単位を修得できない。

卒業の認定については、学則第 1 条に「広く知識を授けるとともに、深奥な学問芸術を研究・教授し、よりよき社会人としての人間形成を行うことを目的とする。」ことを定め、各学部においては学位授与方針（ディプロマポリシー）に基づき卒業の認定を行っている。

また、学則第 19 条に「教育課程修了の認定は授業科目の試験、研究報告の成績を審査し、その結果に基づき、教授会の審議を経て学長が行なう。」こと、学則第 21 条に「学長は、学部に 4 年以上在籍し、卒業に必要な単位数 124 単位を修得し、かつ学費等納入金について大学への諸債務を滞納していない者について、教授会の審議を経て卒業を認定する。」と定め、適切に卒業の認定を行なっている。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
芸術学部	造形学科	124 単位	有	48 単位
デザイン学部	イラスト学科	124 単位	有	48 単位
	ビジュアルデザイン 学科	124 単位	有	48 単位
	プロダクトデザイン 学科	124 単位	有	48 単位
	建築学科	124 単位	有	48 単位
マンガ学部	マンガ学科	124 単位	有	48 単位
	アニメーション学 科	124 単位	有	48 単位
ポピュラーカルチ ャー学部	ポピュラーカルチ ャー学科	124 単位	有	48 単位
人文学部	総合人文学科	124 単位	有	48 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/map/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
芸術学部	造形学科	1,550,000 円	200,000 円	0 円	
デザイン学部	イラスト学科/ビ ジュアルデザイン 学科/プロダクト デザイン学科/建 築学科	1,579,000 円	200,000 円	0 円	
	マンガ学部				
ポピュラーカル チャー学部	ポピュラーカル チャー学科				
人文学部	総合人文学科	1,086,000 円	200,000 円	0 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要)
<ul style="list-style-type: none"> ● 京都精華大学－在学生の方へー 建学理念・学則 http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/about/ ● 京都精華大学－在学生の方へー 授業・試験関連 http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/ ● 京都精華大学－在学生の方へー 留学生の方へ http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/foreign/

- 京都精華大学－在学生の方へ－国際交流・交換留学
<http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/international/>
- 京都精華大学－在学生の方へ－施設利用
<http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/facilities/>
- 京都精華大学－在学生の方へ－学生生活
<http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/campuslife/>
- 京都精華大学－在学生の方へ－各種申請・手続き
<http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/application/>
- 京都精華大学－在学生の方へ－学費・奨学金
<http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/expenses/>

b.進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

- 京都精華大学－在学生の方へ－進路・就職支援
<http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/careerpath/>
 - キャリア支援チームでの支援
http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/careerpath/c_support/
 - セイカ・ポータルによる進路・就職支援
http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/careerpath/s_support/
 - 就職活動に役立つサイト
http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/careerpath/all_link/

c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

- 京都精華大学－在学生の方へ－健康・生活のサポート
<http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/advisement/>
 - 健康・生活の相談
<http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/advisement/about/>
 - 障害学生支援
http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/advisement/s_support/
 - ストップハラスメント
http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/advisement/s_harassment/
 - 学生教育研究災害障害保険・学研災付帯賠償責任保険
<http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/advisement/insurance/>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：http://kyoto-seika.ac.jp/about/files/2019/06/2018_jigyohoukoku.pdf